

何かによる、何かしらの、何かであって、そして何だか正しいらしい何か

越中正人 個展

2017年 12月9日 〔 土 〕 －12月27日 〔 水 〕 11時～19時
金曜日20時まで / 月曜日休廊

Gallery P A R C
GRAND MARBLE

越中正人(こしなか・まさひと／1979年・大阪)は、2000年の「Mio Photo Award 2000 優秀賞」受賞をキャリアのスタートに、これまでおもに写真を表現媒体として制作・発表を続けています。これまでに多くの個展・グループ展での発表やアートフェアへの参加のほか、2008年には『UBS Young Art Award for Asia』(G27 / チューリッヒ・スイス)を受賞、2009年に越後妻有アートトリエンナーレ(新潟)へ出品、2013年にWROメディアアートビエンナーレ(ポーランド)に参加するなど、海外にもその活躍の場を広げています。また、近年では2012年の「BIWAKO BIENNALE 2012」(滋賀)での《Hidden present》や、2015年の「Anagolism」(C.A.P. / 神戸)での《hello...》などの映像作品、また2015年のポーラ美術館での個展「from one pixel」(ポーラ美術館 / 神奈川)では、セザンヌへのオマージュとした映像インスタレーションを発表するなど、その表現方法は多様化・多層化しています。

越中はその作品制作の根底に「集合(集団)と個(個人)の関係性への眼差し」を据えて、そこに写真を介在させることにより、私(私たち)の社会や歴史の中で、それぞれが如何に成り立ち、如何に相互に関係し、如何に変容するのか、そしてその刹那や狭間にどのような因子や様相が見えるのかを浮かび上がらせようとします。その写真は「私(私たち)と私たち(私)」の狭間に一瞬だけ見えかくれする、多様さや曖昧さ、必然性や理不尽などのおよそ不可視を捉えています。そして、近年において越中は、私(私たち)が何を・どのような理由で「不可視」としているのか、への疑問へと眼差しを進めています。本展では現在に越中の眼差しの向く先を、大きく二つの作品から知ることができます。

2階展示室の作品《 冥婚 》は、未婚のまま亡くなった者を、その遺族が不憫さや一族の繁栄を閉ざすかもしれないという恐れから、死後婚姻させるという日本・アジアに見られた風習「冥婚」を題材にしたもので、越中が近年に取り組んでいる映像による作品となります。現代において婚姻とは、歴史、人種、経済などの様々な背景が溶け合う多様性への因子であるともいえますが、こうした風習では価値感や概念などの見えない「あるべきこと(正しさ)」が、生のみならず死後の世界へも至り、求められている様を切り取ったものといえます。

映像の中では、時代背景の異なる男女が、それぞれの時代で「個であること、集団であることや、そのどちらも求め、求められること」の狭間に揺れますが、と同時にそうした「であること」の理由や根源は不明瞭なままです。冥婚自体は一部地域に残る少数の事例かもしれませんが、

そうした「見えざるもの」を「見える(在る)」として共有することが、ある種の社会を構築しているとも言えますが、しかしまたそのことが「個」を規定し、その振る舞いから多くの自由を奪っている側面もあるといえるでしょう。本作品では、個が集団を成すのではなく、集団を前提にそれを構成しない存在を「個」とする今日的な風潮を重ねることができます。

また、4階展示室では越中の新たな試みとして、AR (Augmented Reality=拡張現実)を取り入れた「写真作品」を発表します。スマホなどの端末を通して見る目の前の風景に仮想の視覚情報を加え、重ねて表示するこの技術は、近年では『Pokémon GO』に取り入れられるなど、私たちの身近に多く見られるようになりました。

越中はこの新作《 checking "checking answers" 》のプロジェクトにおいて、ARを通して見る世界にユニークな方法で「答え合わせ」という視点を導入します。作品の右半分には何処か(展示作品では横須賀市の資料館や観光スポットなど)のポストカードやパンフレットをハサミで切って加工したイメージが、左半分には端末を通してそこにARが重ねられて見えるイメージが、ともに「写真」としてプリントされています。端末の画面内では、その両者は表層上ほぼ同様でありながら、ARは画角の変化や寄り・引きが可能であり、また越中が実際にその場所を取材した写真などの情報で構成されていることが分かります。

たとえばここで、鑑賞者は端末を通して見る目の前の風景を信じ・疑うとともに、いつしか左右を見比べ、そこに「答え合わせ」を求めるとは 아닐でしょうか。では、その時、鑑賞者は何を「正しさ」とするのでしょうか。確かに目の前にありながらも、撮影者の視点をプリント上に固定されたイメージ(写真)、奥行きや時間性などの情報量を含みながら目の前には決して無いイメージ(AR)。「答え合わせ" 合わせ」と題された本作品では、何ををもって答え(正しさ)とするかが不明なまま、間違い(違い)だけが注視される状況や、無自覚に正しさ「のようなもの」を立たせ、それををもって「間違い」を規定しようとする私たちのありようを作品鑑賞によって追体験するかのようです。

本展は、多様性から画一性、個から集団へのモーメントがどのように生じ、どのような関係性を持ち、どのようにして収斂されていくのかを「風習・習俗」と「先端技術」の二つの視点から考察するものになります。またその曖昧な中で「正しさ」という不可視の指標が、どのような求め、どのような役割をもって立ち上がるのか、私たちの中と外のあり様を写すのではないのでしょうか。

WORKS

2F

冥婚 〔 single channel Ver. 〕

HDビデオ(17:51)

2017

この作品は「冥婚」という未婚のまま亡くなった者を、その遺族が不憫さや一族の繁栄を閉ざすかもしれないという恐れから、同じように未婚のまま亡くなった異性を探し、死後婚姻させるという日本・アジアに見られた風習を題材にした。婚姻とは、歴史、人種、経済などの様々な背景が溶け合う多様性の因子であるとも言えるが、この風習では結婚に対する価値感や概念には絶対的な「正しさ」を伴う行動を感じた。「冥婚」は正しいから行っている絶対的な原則、ということだ。この「正しい」という一例を取り入れ、本映像作品は冥婚の男女、そして現在の男女の感情や考えが入り乱れ、その「正しさ」という概念は時には普遍であったり、特殊なものに変化する。この作品は展示方法によって、ビデオバージョンとインスタレーションバージョンがある。(越中)

3F～4F

checking "checking answers" #01～10

each 300 X 300 / 600 X 600 mm, Augmented Reality, C-print, mounted on acrylic

2017

＊3F～4F展示作品《 checking "checking answers" 》はAR (Augmented Reality=拡張現実)技術を通して鑑賞いただく作品となります。端末は2Fカウンターで貸し出しておりますので、お申し出ください。

また、Android端末のみ「Google Play」よりARアプリをダウンロードいただくことも可能です。(アプリは「koshinaka masahito」で検索いただくか、右記のQRコードより取得できます。)



この作品は見えない声や見えないものなどに対して、自身の目を通して「在る・無い」をどのように信じ、または疑うかといった「答え合わせ」を内在させた作品です。この作品には写真の構造とAR(Augmented Reality=拡張現実)を用いている。私が考える写真の構造とは、カメラが写るものはカメラの前にある「実像」しか写せない。しかし、その写し出されているものには、内容、内側、関係、中身、背景や歴史などを持っており、「実像」を介してそれらを伝えている。それらは写真には写っていないので、その「実像」から読み取るか、補足資料から考察しなければならぬ。つまり、これら全てを理解しなければ、その写真は意味を成さない。この作品では1つの「実像」に対して、写し出せなかったものをARで出現させた。さらに、このARを撮影して、新たにカメラの目の前にあるものとしてARの「実像」写真を制作した。体験しながら見るARと「実像」化されたARを見比べる。(越中)

statement

近年制作している中で、集合した多数の個によって多様化が生じるはずが、気づかないところで多様化は消え、時間と共にいつのまにか集約された1つの結果のみにすり替わっていると感ずることがあった。この画一化の結果までの過程には多くの意見や試み(多様性)があったはずなのに、他に選択の余地がない結果(画一性)のみとなり、そして、私はそれを当たり前のように従順していると感じた。多様性である根源を集めることで、ひとつになった過程や理由が表面化されるのではないかと思っている。

越中 正人

C.V.

越中 正人

MASAHITO KOSHINAKA

1979年	大阪市生まれ
2001年	ビジュアルアーツ専門学校 写真学科卒業

Solo Exhibitions

2016 "NEWoMan ART wall" NEWoMan, Tokyo, Japan

2015 "from one pixel" ポーラ美術館, 神奈川

"Anagolism" C.A.P. 神戸, 兵庫

2011 "individuals" nca | nichido contemporary art, 東京

2008 "double word" nca | nichido contemporary art, 東京

"echoes" Gallery RAKU, 京都, 日本

2006 "a view from the view" VOICE GALLERY, 京都

2004 "Those who go with me" VOICE GALLERY, 京都

Group Exhibitions

2014 ART FAIR TOKYO 2014, 東京国際フォーラム, 東京

＊ 3331 Art Fair -Various Collectors' Prizes, アーツ千代田 3331, 東京

＊ “small works” nca | nichido contemporary art, 東京

＊ 15th WRO Media Art Biennale 2013, ヴロツワフ, ポーランド

＊ ART FAIR TOKYO 2013, 東京国際フォーラム, 東京

2012 BIWAKO BIENNALE 2012, 滋賀

2011 ART FAIR TOKYO 2013, 東京国際フォーラム, 東京

2010 TOKYO PHOTO 2010, 六本木ヒルズ アカデミーヒルズ, 東京

＊ Mancy's Tokyo Art Night, Mancy's Tokyo, 東京

2009 越後妻有アートトリエンナーレ2009 at FUKUTAKE HOUSE, 新潟

＊ "visible and invisible" MATSUO MEGUMI + VOICE GALLERY pfs/w, 京都

＊ ULTRA 002, SPIRAL GARDEN, 東京

＊ KIAF 2009, COEX, ソウル, 韓国

2008 "Identity IV " nca | nichido contemporary art, 東京

＊ KIAF 2008, COEX, ソウル, 韓国

＊ Art Agnes 2008, Agnes hotel, 東京

＊ ART FAIR TOKYO 2008, 東京国際フォーラム, 東京

2007 Art Miami, The Wynwood Art District of Miami, マイアミ, アメリカ合衆国

＊ SAF 2007, China's Shanghai Municipality, 上海, 中国

＊ "UBS Young Art " G27, チューリッヒ, スイス

＊ "Masahito Koshinaka + Yukihiro Yamagami" baobab, 京都

＊ "into the photograph,out of the photograph" Third Gallery Aya, 大阪

2005 "ZONE-POETIC MOMENT" 東京ワンダーサイト, 東京

2004 "Toyota Triennale 2004 " 豊田市美術館, 愛知

2001 "field of field" gallery Ren, 京都

＊ "Mio Photo Award 2000 受賞者新作展" 天王寺Mio, 大阪

2000 "Mio Photo Award 2000" 天王寺Mio, 大阪

Award

2000 Mio Photo Award 2000 優秀賞受賞

Scholarship

2015 ひょうご安全の日推進事業助成金, 兵庫

2013 助成金給費 駐日ポーランド共和国大使館 広報文化センター, 東京

2007 助成金給費 THE UBS ART COLLECTION, チューリッヒ, スイス